

# 矢作川河岸・越戸平井地区の昆虫

The insect fauna of Kosido and Hirai district, margins of Yahagi River

田中 蕃<sup>1)</sup>・蟹江 昇<sup>2)</sup>・高橋啓太<sup>3)</sup>・白金晶子<sup>4)</sup>

Ban TANAKA<sup>1)</sup>, Noboru KANIE<sup>2)</sup>, Keita TAKAHASHI<sup>3)</sup> & Akiko SHIRAGANE<sup>4)</sup>

## 1. はじめに

豊田市の矢作川河岸部のうち、図1に示した平成記念橋を最下流として、左岸は百々町の貯木場まで（以下平井と記す）、右岸は越戸公園南端まで（以下お釣土場と記す）の間で夏秋の昆虫の調査を行った。

この区間は、上流古風水辺公園からの眺望景観で注目されているように、川辺の汀まで緑が極めて豊富にあると見られている。これは一方では汀への人の接近を妨げる結果となり、人の親水環境としての機能が損なわれているのも事実である。したがって、この区間の親水環境づくりが必要と考えられるが、良好な自然環境を維持しつつこれを実現しなければならない。それには事前調査を十分に行って、環境の諸要素を把握し、的確に自然環境に恵まれた親水環境を創出するための基本設計がなされるべきである。この目的に沿って豊田市河川課が企画した基礎資料収集の方針に従い、以下に述べる昆虫類生息状況の実態調査が実施された。

## 2. 調査方法

冒頭に述べたように、調査の範囲は左右両岸でそれぞれ直線距離にして約1.7 kmにわたっているが、それ程広大ではない。しかし景観から予測される通り、あるいはそれ以上に河川敷の植被が密で道がなく、固定したルートを設定するにも難渋するような場所である。したがって定点調査以外はかなりランダムに動き、任意調査を実施した。

任意調査：高水敷堤防より内側に出現する個体の確認に重点を置いたが、竹林などが高密度に繁茂していて調査不能の場合は、堤防の外側斜面も調査対象とした。目視によって種の確認ができるものについては、その都度メモに記入し、種の判定が現地では困難な種（区別点が微妙で肉眼判定のできない種など）については採集し、検鏡して同定した。またセミ類やキリギリス類など鳴き声に特徴のある種は、その場で記録するにとどめた。なお、草木の葉上にとまっている個体を無作為に掬い取るスイーピング法は、定量的方法として採用してもよいが、ほとんどがマダケのような単一の植生の場所であり、比較的開けた場所はテリハノイバラのように捕虫網にひっかかつて採集に難渋を来す棘植物が多く、適当場所で小範囲を細切的に随時実施したため、この方法は任意調査として扱った。さらにお釣土場

と百々町の貯木場にはそれぞれ異質の止水環境があり、これらについては各1回玉網を用いた水生昆虫調査を行った。

ベートトラップ法：直径70 mm，深さ90 mmの紙コップをその上部がちょうど地面と同じ高さになるように地中に埋めて，コップ中に誘引餌として乳酸菌飲料の原液を少量入れ，これにひかれて集まった地表性の昆虫を落とし込んで採集する。一夜放置し，翌朝回収して採集された昆虫を調査した。トラップは約2 m間隔で1調査地点に10個設置した。これらトラップは，哺乳動物によると思われる攪乱がしばしば見られたが，誘引餌に唐辛子のような刺激物を加えても被害防止効果がなく，この場合被害によるデータ不備を補完するための再調査は実施しなかった。

ピットホールトラップ法：上記ベートトラップとまったく同様の仕掛けで，誘引餌のみを除外したもの。誘引を目的とするのではなく，単純に地表を歩行中の昆虫が偶然に落ち込むだけのもの。設置個数も同様に，約2 m間隔で1調査地点10個とした。

灯火採集法：白い布地で作ったスクリーン（約180×180 cm）を張り，その前に100 Wの水銀灯2個を点灯して，光に誘引される昆虫をスクリーンに止まらせて採集した。点灯時間は季節によって変化し，原則的に日没から約3時間とした。

### 3. 調査範囲および定点

#### 1) 調査範囲

鳥類のような帯センサス法は，昆虫ではチョウ類で実施されることがあるが，膨大な種数を持つ昆虫類の中でチョウ類は小さなグループなので，これで環境のすべてを指標させることは躊躇せざるを得ない。しかも本調査の範囲は，河川敷でありながら高水敷堤防上のほかに川に平行して歩行できる通路がなく，様々な環境をくまなくカバーし得るセンサスルートの設定が不可能という状況があつて，厳密に条件設定された帯センサス法は採用できなかった。上の状況の下に，全調査区域をカバーする部分は任意調査を基本として，堤防上道路に沿った形で行った。ただし，お釣土場では低水敷に降りることが可能で，さらに下流に向かって半島状に突出した部分があつて，ここは通行可能である。この場所が唯一の汀に沿った調査場所になった。

#### 2) 定点

ベートトラップ，ピットホールトラップおよび灯火採集の3つの調査方法については，次の定点で毎回実施した（図1参照）。P印の地点は前2者，L印は灯火採集地点を示す。

[ベートトラップおよびピットホールトラップ]

お釣土場…P-1 入り口の反対側，堤防外側斜面。草本で覆われている。

P-2 入り口より河原に降りる道の左（上流側）のマガケ林。

P-3 下流に向かって突出する半島状部分の付け根のヤナギ林内。わずかな増水で冠水する。

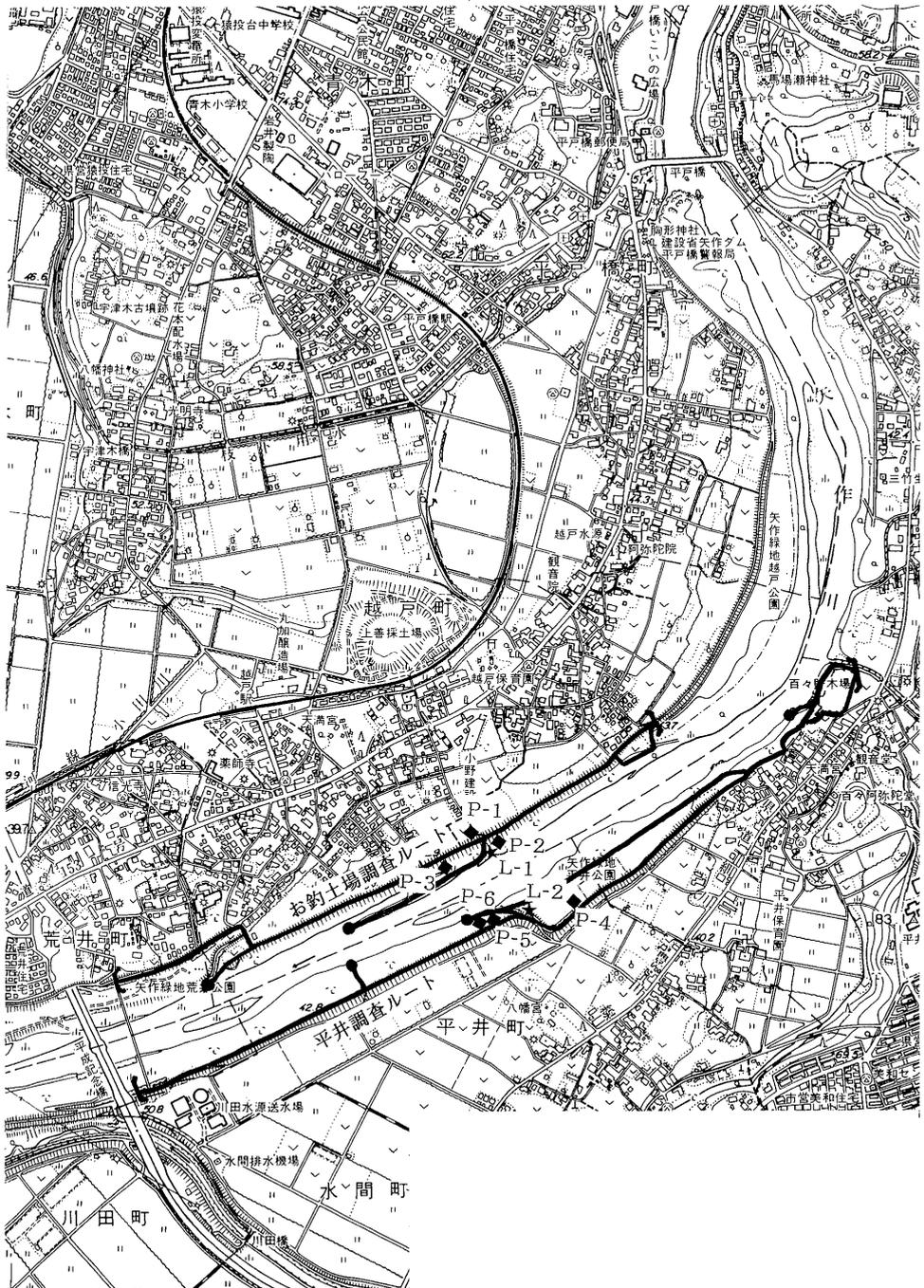


図1 調査範囲・地点

- ◆ ピットホールトラップ・ベートトラップ地点
- ★ 灯火採集地点
- ┌─── 調査ルート起・終点
- ─── 調査ルート脇道折り返し地点

- 平井……………P-4 公園グラウンドに面した高水敷堤防の斜面。  
 P-5 公園駐車場との境界から1~2m川のほうに入った部分のマダケの林。  
 P-6 P-5よりさらに約5~6m川に接近した部分。実質的には、マダケの優占度がさわめて高い。

[灯火採集]

- お釣土場…L-1 入り口から低水敷に降りたところの平坦地。  
 平井……………L-2 公園駐車場から川への降り口

#### 4. 調査実施日

7月の予備調査を含め、調査方法別に実施日を表1~3に示す。

表-1 ベートトラップおよびピットホールトラップ（1夜放置であるが仕掛け日で示す）

地点 月	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6
7月	7/23				7/23	
8月	8/20	8/20	8/20	8/29	8/29	8/29
9月	9/29	9/29	9/29	9/21	9/21	9/21
10月	10/31	10/31	10/31	10/24	10/24	10/24

表-2 灯火採集

地点 月	L-1	L-2
8月	8/31	8/29
9月	9/29	9/28
10月	10/27	10/24
11月	11/23	11/23

表-3 任意調査

地点 月	お釣土場	平井
8月	8/13, 31	8/15, 17, 28, 29
9月	9/22	9/21
10月	10/4, 7, 31	10/13, 30
11月	11/16, 17	11/7, 17
12月	12/14	

## 5. 調査結果

### 1) 生息種数

別表に、調査地域別全確認種を総覧した。なお、学名は亜種名までを記し、命名者名は省略した。

また、表4にお釣土場、平井両地区における確認目数、科数、種数を集計して示した。表4から明らかなように、お釣土場では15目138科492種以上、平井では15目126科439種以上の昆虫が確認された。季節的に最も昆虫の多い5~7月の調査が脱落しているが、生息環境として圧倒的にタケの優勢な植生のもとでは、季節的に見て標準的な種数が確認されていると考えられる。実際には同定不能な個体が多く、これ以上の種数になるのは間違いないが、それでも大勢を覆すほどの種数にはならないと思われる。目の数は同じであるが、科、種ともにお釣土場のほうが勝っており、昆虫相が若干豊富であることがうかがえる。しかし今回の調査結果で懸念されるのは、羽化後に陸上で生活している水生昆虫の多くが、外見的に形態特徴の明らかな種以外は、成虫での確実な同定がほとんどできなかったことである。河岸のように水辺に沿った環境での昆虫調査は、底生昆虫の調査も並行的に行い、対象水域全体の調査精度を上げる必要がある。

### 2) お釣土場、平井両地域の昆虫相比較

両地域における植生の相違が微妙に反映して、科、種数の差となったものと思われる。以下に両地域の昆虫相の異同と特徴を述べる。

- (1) 表4から明らかなようにいずれも優占度はチョウ目が1位、コウチュウ目が2位であったが、3位以下には乱れが見られる。総種数で53種の差があるが、そのうちチョウ目の種数差が38を占めており、ついでコウチュウ目の11種で、種数差の大部分を占めている。したがって、この2目の相違に両地域の特徴が表現されていると見られる。
- (2) まずチョウ目であるが、その科別種構成を見ると表5のようになる。両地域において優先順位はヤガ科、メイガ科、シャクガ科と同じで、その他の優占率はすべて1桁台である。この3科の種構成はいずれも幼生期に草本を食する種が多く、木本を食べるものはきわめて少ない。その中で樹木の葉などを食べる森林性種が、お釣土場の方に幾分多く見られる。これが種数を高めていると見て良いのであろう。すなわち、ベースとなる群集構成は草本群落に依存性が高いという特徴を認めざるを得ない。
- (3) 同様にチョウ目で顕著な現象は、ヒトリガ科11種のうち、ヒトリガ亜科はわずか2種、残り9種はすべてが樹木や岩石上の苔を食べるコケガ亜科に属する一群だという事実である。しかもこの9種のうちお釣土場8種に対し、平井ではわずか1種にすぎない。これは左右両岸の植物環境と、湿度条件の相違を最も具体的に表現する結果として注目される。
- (4) メイガ科が優占順位2位にあるのは、草本群落の優勢さを示していると考えられる。最も多いのはノメイガ亜科であるが、草本を食餌食物とする種で占められている。その他とくにこの科には、水辺に生えるヨシ、マコモなどのイネ科に強く依存するツトガ亜科があ

表一 4 目別科数, 種数一覧 (≦は同数かそれ以上であることを示す)

地 域	お 釣 土 場				平 井				
	集計項目 目	科	種	優占率%	順位	科	種	優占率%	順位
	トビムシ	1	2≦	0.4		1	1	0.2	
	カゲロウ	6	10≦	2.0	9	6	10≦	2.3	9
	トンボ	8	23	4.7	6	7	20≦	4.5	6
	カワゲラ	1	2≦	0.4		1	2≦	0.5	
	ゴキブリ	1	1	0.2		1	1	0.2	
	カマキリ	1	3	0.6		1	2	0.5	
	バッタ	6	18≦	3.7	8	6	18≦	4.1	7
	ハサミムシ	2	2	0.4		—	—	—	
	アザミウマ	—	—	—		1	1	0.2	
	カメムシ	22	43≦	8.7	4	22	45≦	10.2	5
	アミメカゲロウ	2	3	0.6		1	2	0.5	
	コウチュウ	23	83≦	16.9	2	29	72≦	16.4	2
	ハチ	10	40≦	8.1	5	13	51≦	11.6	3
	ハエ	24	48≦	9.8	3	21	46≦	10.5	4
	トビケラ	9	21≦	4.3	7	6	13≦	3.0	8
	チョウ	23	193≦	39.2	1	20	155≦	35.3	1
	合計	138	492≦	100.0		126	439≦	100.0	

り, 樹木依存性の強いマダラメイガ亜科が少ないのと対照的に多かった。

- (5) 次いでコウチュウ目について述べる。お釣土場では後翅が退化して飛べず, 地上歩行するのみの大型オサムシが4種(ミカワオサムシ, アキタクロナガオサムシ, クロナガオサムシ, マイマイカブリ)も得られている。これらは本来森林斜面を好むものであり, 通常平地には見られないが, お釣土場堤防内外の, 主にベートトラップで得られた。その他泥地を好むアオゴミムシ類も得られており, これら大型肉食性甲虫が多く生息できることは, 被捕食者となる小動物が多く存在する良好な環境が維持されていることの証明になる。陸生巻貝(カタツムリ類)の死骸が目立ったのは, そのような食物環境があることを示しているのかもしれない。平井ではオサムシ類が貧弱でわずか12種, これに対しお釣土場は21種を数えた。お釣土場は, 環境の多様さの面で著しく勝っていると見ることができる。
- (6) ケシキスイ科が, お釣土場5種に対し, 平井2種であるのも, 前者のほうが樹木に富んだ環境であることを示す。
- (7) テントウムシ科が両地域ともに多いことも目立った現象である。ただしこの場合は平井10種に対し, お釣土場7種で, 平井のほうが多い。これは確認されたテントウムシ類の食物となるアブラムシ類が, おもに草本群落で繁殖している状況を示している。
- (8) カミキリムシ科とゾウムシ科が非常に少ない。発生期を的確にとらえた調査でないこともあるが, ここでも両地域ともに樹木依存性の種の貧弱さが明確となっている。お釣土場のほうが若干多いのは, 樹木の密度の問題であろうと考えられる。
- (9) ハチ目は, 種数において平井のほうが勝る結果となった。その原因を分析すると, 大型

表一五 チョウ目昆虫の科別種構成 (≦は同数かそれ以上であることを示す)

調査地域	お釣土場			平井		
	種数	優占率	順位	種数	優占率	順位
ハマキガ	9≦	4.7	5	6≦	3.9	5
カザリバガ	1	0.5		—	—	
ヒゲナガキバガ	—	—		1	0.6	
マダラガ	1	0.5		—	—	
イラガ	1	0.5		—	—	
マドガ	—	—		2	1.3	
メイガ	34	17.6	2	29	18.6	2
トリバガ	1	0.5		1	0.6	
セセリチョウ	4	2.1		6	3.9	5
アゲハチョウ	5	2.6		6	3.9	5
シロチョウ	4	2.1		2	1.3	
シジミチョウ	6	3.1		6	3.9	5
タテハチョウ	10	5.2	4	10	6.4	4
ジャノメチョウ	4	2.1		5	3.2	
カギバガ	2	1.0		—	—	
トガリバガ	1	0.5		—	—	
シヤクガ	23	11.9	3	24≦	15.4	3
ツバメガ	1	0.5		1	0.6	
カレハガ	1	0.5		—	—	
カイコガ	1	0.5		1	0.6	
スズメガ	2	1.0		4	2.6	
ドクガ	2	1.0		1	0.6	
ヒトリガ	10	5.2	4	1	0.6	
コブガ	2	1.0		2	1.3	
カノコガ	—	—		1	0.6	
ヤガ	68≦	35.2	1	47≦	30.1	1
計	23科 193種≦	99.8		20科 156種≦	100.0	

のハチのほとんどが捕食性、もしくは狩猟性であり、とくに後者の巣作りに適した、安定した砂地面や枯れた竹筒などとともに、幼虫の食物となるクモ類、バッタ類、ガ類の幼虫などを捕らえやすい状況が平井に多く見られるという点があげられる。

- (10) ハチ目の中でアリ科の占める割合は非常に高く、お釣土場で45%、平井で39.2%におよび、大きな特徴となっている。その原因は定かでないが、本来河水によって攪乱される河岸が、近年の水量安定化のもとで、地中生活者のアリ類にとって、安定した土壌条件が与えられているのが現在の川辺環境となっているものとおもわれる。
- (11) アリ科に見る竹林の環境特性は、トビイロケアリ、アメイロアリ、アズマオオズアリ（もしくはオオズアリ）の3種の優占率がきわめて高いことで表現されそうである。平井における川辺林縁では、実質上竹林の延長と考えて良いくらいマダケが多いが、幾分日射があるため変化のある環境となり、上記3種以外の群集構成が見られ、相対的に特定種の優占率は低下した。お釣土場の竹林には、他の樹木が僅かに密度高く混交している環境を反映して対岸よりアリ類の種数が多い。ただし、ワンドのヤナギ林では樹木に営巣するこ

との多いトビイロケアリ 1 種で代表するというほどの優占度があり、そのほかは種数、個体数ともに貧弱で、この場所がしばしば冠水する不安定な環境であることを示している。

- (12) トンボ科はお釣土場のほうが多く確認できた。これは半島状突出部によって仕切られたワンド部分の幼虫調査の成果によるもので、汚濁されていない清水に生息する種が多く確認された。これとは逆に平井地区の百々町貯木場内の池で幼虫を調査したが、浅くて水温の高い止水環境のためか、たんぼに生息するようなごく普通に見られる種が大量に見出されたのみで、この池には通水による若干の環境改良が必要と思われた。

### 3) 希少種等の特筆すべき昆虫類

特筆すべき昆虫の範囲に入るものは、次の基準により選定した。

- ① 日本の絶滅のおそれのある野生生物——レッドデータブック——：環境庁 1991 の掲載種
- ② 第 2 回自然環境保全基礎調査：環境庁 1980 に掲載された指標昆虫および特定昆虫
- ③ 愛知の昆虫(上)：愛知県農地林務部 1990 において未掲載種、希少もしくはそれに準ずる種として解説されている種および標本データがきわめて少ない種
- ④ 愛知の昆虫(下)：愛知県農地林務部 1991 において未掲載種、希少もしくはそれに準ずる種として解説されている種および標本データがきわめて少ない種

今回の調査で確認された特筆すべき昆虫類は以下の 30 種であった。

- (1) ムスジイトトンボ [トンボ目イトトンボ科 ②]  
海岸の沿岸部の池沼に発生し、通常内陸部には生息しない南方系の種。豊田市からの記録なし。お釣土場のワンドで幼虫が発見された。定着しているかどうか疑問。
- (2) アオハダトンボ [トンボ目カワトンボ科 ③]  
豊田市未記録。本来清冽な水の河川を生息域としていて、近年確実な生息地が見られなくなったという。平井の矢作川の汀や竹林の中の日だまりで普通に見ることができる。
- (3) オナガサナエ [トンボ目サナエトンボ科 ③]  
平地から山地にかけて河川の急流部に生息するといわれるが、河川改修工事の進んでいる平地では近年ほとんど見られなくなった。豊田市では 1977 年八草町で採集された記録以外に知られていない。今回平井公園の汀の叢で 1 頭が採集された。
- (4) メガネサナエ [トンボ目サナエトンボ科 ②③]  
愛知県では確認記録が激減し、確実な生息地が見当たらない。豊田市では八草町で 1973 年に採集されのが唯一で、最近の記録は全くない。今回百々町貯木場付近の川辺で 1 頭が採集された。
- (5) ホンサナエ [トンボ目サナエトンボ科 ③]  
生息環境の破壊と汚染により最も減少したトンボの一つとされている。現在では愛知県下の希種になっている。お釣土場ワンドの幼虫調査で、29 個体が見出された。
- (6) キイロヤマトンボ [トンボ目エゾトンボ科 ③]  
丘陵～低山地の河川中流域に生息する希少種であるが、最近ではきわめて希になった。従来豊田市からの正式な記録はなく、最も近い矢作川水域での確認記録は、1986 年足助町月原の一例があるだけ。

## (7) ミカワオサムシ [コウチュウ目オサムシ科 ②]

山地～平地森林の林床に生息する種で、従来は広く分布していたが、開発により生息地を失いつつあり、産地が極度に限定されてきている。お釣土場、平井の両地域で確認されているが、矢作川の河川敷が良好に保全されてきたため遺存していると思われる。

## (8) アキタクロナガオサムシ [コウチュウ目オサムシ科 ②]

山地森林の林床に生息する種で、極めて低標高の平地に確認された珍しい例。お釣土場の柳林のみで確認されているが、対照地区の調査では古鼠水辺公園でも確認されており、生息の実態をさらに綿密に調べる必要がある。山の自然要素を河川沿いに都市へ導く回廊づくりのとき、重要な視点を与える種であるとの印象が強い。

## (9) トゲアトキリゴミムシ [コウチュウ目オサムシ科 ③]

お釣土場の柳林で1個体が得られている。好砂地性の種で全国的に広く分布しているが、どこでも採集は困難である。愛知県下では、三河湾内の島嶼、三河大島での1例があるにすぎない。対照区の古鼠水辺公園でも採集されており、矢作川が本来砂河川であった歴史的背景を強く印象づける。

## (10) マメダルマコガネ [コウチュウ目コガネムシ科 ③]

通常広葉樹の落ち葉の下などに生息するものであるが、平井の7月の予備調査で発見された。近隣の雑木林からの飛来と考えられるが、山の自然要素の流入が、定常的にわずかでも行われていることを示す例として興味深い。豊田市では猿投山に記録がある。

## (11) チビヒゲナガハナノミ [コウチュウ目ヒラタドロムシ科 ③]

本種はこれまで西三河から記録がないが、生活の実態は良く分からない。矢作川で生息する水生昆虫と考えられる。お釣土場の灯火採集で1個体が得られた。

## (12) ヨコミゾドロムシ [コウチュウ目ヒラタドロムシ科 ①③]

レッドデータ記載の絶滅危惧種。愛知県未記録。平地で水草の豊富な湧き水のある池に生息するといわれ、近年全国的にも記録がほとんど無い。お釣土場の竹林に設置したベートトラップで1個体が得られたが、どうしてトラップに入ったか、生態が不明なだけに疑問なことが多い。お釣土場のワンドには水草があり、伏流水があつて清澄な水環境なので、ここに発生しているものと考えられる。

## (13) セスジヒメテントウ [コウチュウ目テントウムシ科 ③]

愛知県からは、名古屋市東山区と知多市に各1例の記録があるが、三河地方での記録を欠く。平井の11月の任意調査で2個体が採集された。

## (14) クロテントウ [コウチュウ目テントウムシ科 ③]

設楽町裏谷と名古屋市東山で記録されているだけで、県下では非常に希な種。平井の10月の任意調査で3個体が採集された。

## (15) マルキマダラケシキスイ [コウチュウ目ケシキスイ科 ③]

県下では瀬戸市定光寺での採集記録があるのみ。お釣土場の9月の灯火採集で1個体が採集されている。

## (16) アカボシチビヒメハナノミ [コウチュウ目ヒメハナムシ科 ③]

愛知県未記録。お釣土場での10月の任意調査で1個体が得られた。生態については資料がない。

## (17) ヨツモンキスイ [コウチュウ目キスイムシ科 ③]

県下では、小牧市で1例の記録があるにすぎない。お釣土場で9、10月に各1個体ずつ、平井で10月に1個体、いずれもベートトラップで採集され、調査地域では決して希ではないように思われる。

## (18) ウスチャケシマキムシ [コウチュウ目ヒメマキムシ科 ③]

西尾市の矢作川河口と小牧市で各1例の記録があるにすぎないが、他にも未発表の採集例はあるものと思われる。お釣土場で7個体(任意6, ベート1), 平井で9個体(任意)と両岸で採集されており、調査地域ではむしろ普通に生息する印象が強い。

## (19) ホソクビアリモドキ [コウチュウ目アリモドキ科 ③]

西三河では西尾市で記録があるのみ。今回の調査では、お釣土場で2個体、平井で6個体が採集され、普通に生息することかわかった。矢作川の中〜下流域では連続的に分布している可能性がある。

## (20) ヒメスナゴミムシダマシ [コウチュウ目ゴミムシダマシ科 ③]

一宮町、岡崎市、犬山市と県下に3例が知られている。好砂地性の種で、前記の3例はいずれも河川に沿う分布の象徴的事例と考えられる。お釣土場で1個体、平井で3個体、いずれもピットホールで採集されており、餌に誘引されているわけではないので、調査地域内で個体数はかなり生息しているものと思われる。

## (21) ノコバウロコアリ [ハチ目アリ科 ③]

県下では、岡崎市舞木から記録されているのみの希種。照葉樹林の林床に生息。腐朽木中や落葉中に営巣する。平井の竹林で8月ピットホールに捕獲されたが、1個体のみで、どの程度の生息密度があるのか不明である。川に沿って分布を拡大した南方系要素であろうと考えられる。

## (22) ヒメアカジママドガ [チョウ目マドガ科 ④]

本州未記録の南方系種。平井で8月の灯火採集で、1個体が得られた。

## (23) オオウスグロノメイガ [チョウ目メイガ科 ④]

本州では、奈良県春日山で記録されているのみ。九州南部と南西諸島に確実な生息が知られる南方系種。平井での8月の灯火採集で1個体が得られた。

## (24) ヒメヨツモンノメイガ [チョウ目メイガ科 ④]

本州では東京都下で記録されているものの、土着かどうか疑問視されている。四国、九州、南西諸島に生息する南方系種。平井の8、9月の灯火採集で、各1個体が採集された。

## (25) クロコムラサキ [チョウ目タテハチョウ科 ②]

コムラサキの黒色型遺伝型。紫色の金属光沢をもつ美麗種。全国的にこの遺伝型の出現する地域が限定され、その出現率も異なるが、調査地域では約50%に達し、決して希ではない。川辺の各種ヤナギ類に発生し、最近個体数が増加傾向にある。

## (26) キマグラコヤガ [チョウ目ヤガ科 ④]

愛知県未記録種。本州と九州に分布するが非常に生息地が限られ、得難い種である。おもに草地に生息すると考えられているが、生態は分かっていない。平井での8月の灯火採集で1個体が得られた。

## (27) タケアツバ [チョウ目ヤガ科 ④]

確認されたガ類で唯一タケ類に依存して生活する種。全国的に余り多くないが、愛知県下には広く生息が知られている。調査地域内でも灯火採集で両岸から見出だされている。

## (28) チビアツバ [チョウ目ヤガ科 ④]

関東地方を北限とする南方系種。愛知県では未記録である。9月お釣土場での灯火採集で捕獲された。

## (29) コテングアツバ [チョウ目ヤガ科 ④]

県下の暖流が寄せる沿岸部で採集される南方系の種で、通常内陸では珍しいが、河川流域に沿って内陸へ分布していることがある。平井の8月の灯火採集で得られた。

## (30) カギモンハナオヘアツバ [チョウ目ヤガ科 ④]

県下の記録としては、岡崎市本宿の1例のみ知られる。南方系の種で、前種同様河川流域に沿って内陸に分布しているものと思われる。

## 6. 考察

本調査は盛夏以降に実施され、最も昆虫類の多く発生する5~7月のデータを欠いている。このような制約の存在を承知した上で、上述の調査結果から、当該調査地域の昆虫相の実態とその生息の裏付けとなる環境の特性について考察する。これらは川辺の整備方針立案の重要な根拠資料となると考える。

### 1) 竹林の広範囲被覆による森林性昆虫の貧弱化

ほとんど全域にわたって、竹(マダケが大部分)の群落に覆い尽くされており、林分密度も非常に高い。これは川の景観を緑色に彩る役目を果たしているが、こうした単純な構成の植生の中では、生息する昆虫も相当限定され、貧弱にならざるを得ないであろうし、現実に森林性の昆虫はひどく貧弱である。市街地を取り囲む丘陵や山地の自然とのパイプ役として、緑の回廊を意図する際に、森林の種構成に十分な配慮が必要であり、その回廊形成に竹林が適切であるかどうかははなはだ疑問である。

### 2) 矢作川が砂河川である(あった)ことによる特徴

上・中流域がほとんど風化花崗岩の地質構造であることから、この川には本来砂の多い広大な河川敷があったと考えられる。近年極度の砂利採取で土砂流量が激減した上、利水の規模拡大やダムによる放水制限などの人為作用により、流路が安定しその部分の河床だけが砂のない沈み石構造に変化した。そうした状況の中で、陸上部では過去に堆積した低水敷あるいは高水敷の部分にある安定的砂地に、遺存的に生息していると思われる昆虫が多い。しかしこれらの砂地も、河川氾濫に見舞われる機会がないために、植被が進行して裸地は消失し、昆虫相はかなり個性を失って中庸化している。水中で生活する昆虫にとって、とくに河床形態の変化で生息できなくなった種もあると考えられるが、ワンドのような流水に見舞われず、砂の流亡のない部分には依然として河床が砂地である場所を好む昆虫が温存されてい

る。陸上，水中を問わず，砂地の維持がこの矢作川の川辺に生息する個性的な昆虫類にとって生命線となるであろう。

### 3) 草地性昆虫の温存と南方系種の誘導

森林性昆虫の貧弱さに相対して，草地性昆虫が多いことが特徴として浮上してきている。流域の草地は①水際の湿性土壌に生える低茎の草本群落，②浅い水中に生える挺水植物群落，③高水敷堤防に生える草本群落，の三つに集約されるであろう。その他袖群落，マント群落の重要性も無視し得ないものがある。①に関しては竹類の汀までの進出が目覚ましく，必ずしも草本群落が優勢な繁茂状況になっていない。②はヨシ，オギで代表される高茎草本が汀や中洲に多い。水辺の昆虫を調べるときかならず登場する植生である。この植生に特徴的な昆虫の幾つかは得られているが，その全貌はまだ見えていない。③の重要性はあまり論じられていないが，従来河川の氾濫した後に残された草地の植生を維持してきたものと考えられる。しかし堤防法面の管理が外来植物の導入で 行われるようになってから，虫媒植物が減り，風媒のイネ科が増加し，植生構成そのものの変化が著しい。しかし南向きに流路を持つ河川ではしばしば南風を河川沿いに受け入れるので，それに乗って飛来すると思われる南方系の昆虫が希でなく発見される。それら昆虫の多くは，その生息環境がオープンランドすなわち人為的であるか否かにかかわらず草地であり，誘導できる条件は整っているといえよう。

### 4) 山地性，森林性昆虫が生息している事実

竹林の異常繁茂により，樹木依存性の昆虫が衰退している事実が顕著であるが，一方では予想以上に山地性の昆虫の残存する事実もあり，河岸植生の整備回復によっては豊かな昆虫相に復元できる要因がまだ残っていると思われる。本来川の持っている物質移動のエネルギーが山地や上流の森林から多くの種子を運び，回復が早まるとの期待感も捨て切れない。

## 7. 要約

- 1) 豊田市内の矢作川河川敷の一部，平成記念橋を下限として左岸側百々町貯木場まで（略称：平井）および右岸側越戸公園の南端まで（略称；お釣土場）の陸上昆虫類生息状況を調査した。
- 2) 確認された昆虫は，平井で15目126科439種以上，お釣土場では15目138科492種以上であった。
- 3) 総体的に見て，調査対象地域ではチョウ目，コウチュウ目の2目の優占度が極めて高く，その他の目では低く優占順位にも乱れがあった。群集構成としては，草本依存種が多く，樹木依存性のものは貧弱化する傾向があった。
- 4) 矢作川は上・中流域が風化花崗岩を基盤とする砂河川であることから，砂地に生息する貴重な昆虫類が生息する特徴を明らかにした。これらは河川流量の低位安定で氾濫原が消滅する現況下では，遺存的に生息しているものと考えられる。

- 5) 水辺植生に依存する種も認められたが、若干調査の不十分さがあり言及できない。しかし、川辺の草地は過去海岸の草地植生と開放環境としてつながっており、南方系昆虫の内陸への分布拡大ルートとなっているような事実が目にとまった。
- 6) 調査対象地域に圧倒的優占性をもつタケ群落は、これに依存度の高い昆虫類が極めて少なく、昆虫相の貧弱化を招いているのは明らかである。山間部と都市とを結ぶ緑のベルトの在り方を問う場面では、タケ類の単純な植生を排除し、多様性をもたせる方向を取れば、山地性種の生息が現状皆無でない事実から良い解決方法につながる可能性がある。
- 7) 平井とお釣土場の比較では、後者のほうが多くの生息種を確認した。その相違を生ずる原因についてチョウ目、コウチュウ目、ハチ目、トンボ目の科の群集構成を生態的に分析し、タケ類の被度の差、それと相対的に見られる他の樹木の混交度、ワンドの有無をあげた。
- 8) 貴重種等特筆すべき昆虫類として 30 種を挙げ、それぞれについて掲載根拠を簡単に記した。

## 謝辞

本調査を実施するにあたり、豊田市役所河川課から現地の状況についての懇切な説明、地図等の提供を受けた。調査資料、採集標本の整理に際しては、名城大学農学部動物学研究室の有田豊教授から格別の配慮を賜った。また橋本里志博士および有田玲子、安藤尚両氏には一部標本の同定をしていただいた。ここに厚くお礼申し上げる。

## 文 献

- 愛知県昆虫分布研究会 (1990) 愛知県の昆虫(上), 愛知県農地林務部自然保護課。  
 愛知県昆虫分布研究会 (1991) 愛知県の昆虫(下), 愛知県農地林務部自然保護課。  
 環境庁 (1979) 第 2 回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書 (昆虫類) 愛知県。  
 環境庁 (1991) 日本の絶滅の恐れのある野生動物——レッドデータブック—— (無脊椎動物編), 日本  
 野生生物研究センター。  
 佐藤正孝・安藤 尚編 (1984) 愛知の動物, 愛知県郷土資料刊行会。  
 豊田市 (1992) 豊田市動物モニタリング調査——豊田のよりよい自然を求めて——。

- |   |
|---|
| 1) 豊田市矢作川研究所主任研究員: 〒 471 豊田市西町 3-60 豊田市役所河川課内<br>名城大学農学部動物学研究室研究員 |
| 2) 豊田市矢作川研究所共同研究員: 〒 464 名古屋市千種区自由ヶ丘 3-8, 7-5                     |
| 3) 豊田市役所水道局: 〒 471 豊田市西町 3-60                                     |
| 4) 名城大学農学部動物学研究室: 〒 468 名古屋市天白区塩釜口 1-501                          |

## 別表 調査確認種一覧

目(科)	種 名	お釣場	平井
トビムシ			
ヒロトビムシ	シロトビムシ科 Onychiuridae gen. sp.		○
アヤトビムシ	アヤトビムシ科 Entomobryidae gen. spp.	○	
カゲロウ			
コカゲロウ	タマリフタバカゲロウ <i>Cloeon ryogokuensis</i>	○	○
	コカゲロウ科 Baetidae gen. spp.	○	○
ヒトリガカゲロウ	チラカゲロウ <i>Isonychia japonica</i>	○	○
ヒタラカゲロウ	ヒタラカゲロウ科 Ecdyonuridae gen. spp.	○	○
カワカゲロウ	キイロカワカゲロウ <i>Potamanthodes kamonis</i>	○	○
モンカゲロウ	トウヨウモンカゲロウ <i>Ephemera orientalis</i>	○	○
マダラカゲロウ	マダラカゲロウ科 Ephemerellidae gen. spp.	○	○
トンボ			
イトトンボ	ホソミイトトンボ <i>Aciagrion migratum</i>	○	
	クロイトトンボ <i>Cercion calamourm</i>	○	
	セスジイトトンボ <i>Cercion hieroglyphicum</i>	○	○
	ムスジイトトンボ <i>Cercion sexlineatum</i>	○	
	オオイトトンボ <i>Cercion sieboldii</i>	○	○
	アジアイトトンボ <i>Ischnura asiatica</i>		○
	アオモンイトトンボ <i>Ischnura senegalensis</i>	○	
モノサシトンボ	モノサシトンボ <i>Copera annulata</i>	○	○
アオイトトンボ	アオイトトンボ <i>Lestes temporalis</i>	○	
カワトンボ	ハグロトンボ <i>Calopteryx atrata</i>	○	○
	アオハダトンボ <i>Calopteryx japonica</i>		○
サナエトンボ	ミヤマサナエ <i>Anisohomphus macacki</i>	○	
	ダビドサナエ <i>Davidus nanus</i>	○	
	ホンサナエ <i>Gomphus postocularis</i>	○	
	アオサナエ <i>Nihonogomphus viridis</i>	○	
	オナガサナエ <i>Onychogomphus viridicosta</i>		○
	コオニヤンマ <i>Sieboldius albardae</i>	○	
	メガネサナエ <i>Stylurus oculatus</i>		○
	サナエトンボ科 Gomphidae gen. spp.		○
オニヤンマ	オニヤンマ <i>Anotogaster sieboldii</i>	○	○
ヤンマ	ギンヤンマ <i>Anax parthenope julis</i>	○	○
	カトリヤンマ <i>Gynacantha japonica</i>		○
	ヤブヤンマ <i>Polycanthagyana melanictera</i>	○	
エゾトンボ	コヤマトンボ <i>Macromia amphigena amphigena</i>	○	
トンボ	ショウジョウトンボ <i>Crocothemis servilia</i>		○
	シオカラトンボ <i>Orthetrum albistyrum speciosum</i>	○	○
	オオシオカラトンボ <i>Orthetrum triangulare melania</i>		○
	ウスバキトンボ <i>Pantala flavescens</i>	○	○
	コシアキトンボ <i>Pseudothemis zonata</i>		○
	マユタテアカネ <i>Sympetrum eroticum eroticum</i>	○	○
	アキアカネ <i>Sympetrum frequens</i>	○	○
カワゲラ			
カワゲラ	カワゲラ科 Perlidae gen. spp.	○	○

ゴキブリ			
チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ <i>Blattella nipponica</i>	○	○
カマキリ			
カマキリ	ハラビロカマキリ <i>Hierodula pattellifera</i>	○	
	コカマキリ <i>Statilia maculata</i>	○	○
	チョウセンカマキリ <i>Tenodera angustipennis</i>	○	
	オオカマキリ <i>Tenodera aridifolia</i>		○
バッタ			
コオロギ	ミツカドコオロギ <i>Loxoblemmus doenitzi</i>	○	
	オカメコオロギ属 <i>Loxoblemmus</i> spp.	○	○
	シバズ <i>Pteronemobius mikado</i>	○	
	ヤチズ <i>Pteronemobius ohmachii</i>	○	
	エンマコオロギ <i>Teleogryllus emma</i>	○	○
	コオロギ科 Gryllidae gen. spp.	○	○
カネタタキ	カネタタキ <i>Ornebius kanetataki</i>		○
アリツカコオロギ	アリツカコオロギ <i>Myrmecophilus sapporensis</i>	○	○
キリギリス	セスジツユムシ <i>Ducetia japonica</i>	○	
	ツユムシ <i>Phaneroptera falcata</i>	○	○
	キリギリス <i>Gampsocleis buergeri</i>	○	○
	ササキリ <i>Conocephalus melas</i>	○	○
	キリギリス科 Tettigoniidae gen. sp.		○
オンブバッタ	オンブバッタ <i>Atractomorpha lata</i>	○	○
バッタ	ショウリョウバッタ <i>Acrida cinerea</i>	○	○
	ヒナバッタ <i>Chorthippus brunneus</i>		○
	トノサマバッタ <i>Locusta migratoria</i>	○	○
	エゾイナゴ <i>Oxya yezoensis</i>	○	○
	イナゴ属 <i>Oxya</i> sp.		○
	イボバッタ <i>Trilophidia annulata japonica</i>		○
ヒシバッタ	ヒシバッタ <i>Tetrix japonica</i>	○	
ハサミムシ			
ハサミムシ	ヒゲジロハサミムシ <i>Gonolabis marginalis</i>	○	
オオハサミムシ	オオハサミムシ <i>Labidura riparia japonica</i>	○	
アザミウマ			
クダアザミウマ	クダアザミウマ科 Phlaeothripidae gen. sp.		○
カメムシ			
ウンカ	ナガウンカ属 <i>Stenocranus</i> spp.	○	○
	ヒメトビウンカ <i>Laodelphax stratella</i>	○	○
	ウンカ科 Delphacidae gen. spp.	○	○
ハネナガウンカ	テスジハネビロウンカ <i>Rhotana satsumana</i>		○
テングスケバ	ツマグロスケバ <i>Orthopagus lunulifer</i>		○
アオバハゴロモ	アオバハゴロモ <i>Geisha distinctissima</i>	○	○
ハゴロモ	ベッコウハゴロモ <i>Orosanga japonicus</i>		○
セミ	アブラゼミ <i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>	○	○
	クマゼミ <i>Cryptotympana facialis</i>		○
	ツクツクボウシ <i>Meimuna opalifera</i>	○	○
	ニイニイゼミ <i>Platipleura kaempferi</i>		○
アワフキムシ	ヒメモンキアワフキ <i>Tabiphora rugosa</i>		○
	モンキアワフキ <i>Yezophora flavomaculata</i>	○	

ミミズク	コミミズク <i>Ledropsis discolor</i>	○	
ヒロズヨコバイ	ヒロズヨコバイ科 <i>Macropsidae</i> gen. ap.		○
ズキンヨコバイ	ズキンヨコバイ属 <i>Idiocerus</i> sp.	○	
オオヨコバイ	マエジロオオヨコバイ <i>Kolla atramentaria</i>	○	○
ヨコバイ	ヒシモンヨコバイ <i>Hishimonus sellatus</i>	○	○
	イナズマヨコバイ <i>Inazuma dorsalis</i>		○
	ツماغロヨコバイ <i>Nephotettix cincticeps</i>	○	○
ヨコバイ	シラホシスカシヨコバイ <i>Scaphoideus festivus</i>	○	
	ヨコバイ科 <i>Deltocephalidae</i> gen. spp.	○	○
キジラミ	キジラミ科 <i>Psyllidae</i> gen. sp.	○	
	エノキワタアブラムシ <i>Shivaphis celti</i>	○	○
アブラムシ	アブラムシ科 <i>Aphididae</i> gen. spp.	○	○
イトアメンボ	ヒメイトアメンボ <i>Hydrometra procera</i>		○
アメンボ	アメンボ <i>Gerris paludum paludum</i>	○	○
タイコウチ	タイコウチ <i>Laccotrephes japonensis</i>		○
	ミズカマキリ <i>Ranatra chinensis</i>	○	
コミズムシ	コミズムシ <i>Sigara substriata</i>		○
マツモムシ	マツモムシ <i>Notonecta triguttata</i>		○
メクラカメムシ	ムギメクラガメ <i>Stenodema calcaratum</i>	○	
	ヒョウタンメクラガメ <i>Pilophorus setulosus</i>	○	
	メクラカメムシ科 <i>Miridae</i> gen. spp.	○	○
ハナカメムシ	ヒメハナカメムシ属 <i>Orius</i> sp.	○	○
	ユミアシハナカメムシ <i>Physopleurella armata</i>	○	○
サシガメ	トピロサシガメ <i>Oncocephalus assimilis</i>	○	
ナガカメムシ	ヒメナガカメムシ <i>Nysius plebejus</i>	○	○
	オオカメムシ <i>Picoris varius</i>	○	○
	オオモンシロナガカメムシ <i>Metochus abbreviatus</i>	○	
	コバネヒョウタンナガカメムシ <i>Togo hemipterus</i>	○	○
	ナガカメムシ科 <i>Lygaeidae</i> gen. spp.		○
オオホシカメムシ	オオホシカメムシ <i>Physopelta gutta</i>	○	
ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ <i>Leptocorisa acuta</i>	○	
ヘリカメムシ	ホオズキヘリカメムシ <i>Acanthocoris sordidus</i>		○
	アズキヘリカメムシ <i>Homoeocerus marginiventris</i>		○
	オオツマキヘリカメムシ <i>Hygia lativentris</i>		○
ヒメヘリカメムシ	ブチヒメヘリカメムシ <i>Stictopleurus punctatonervosus</i>		○
ツチカメムシ	ヒメツチカメムシ <i>Geotomus pygmaeus</i>	○	
	ツチカメムシ <i>Macroscytus japonensis</i>	○	
カメムシ	ナガメ <i>Eurydema rugosa</i>		○
	ツヤアオカメムシ <i>Glaucias subpunctatus</i>	○	○
	クサギカメムシ <i>Halymorpha picus</i>	○	○
	チャバネアオカメムシ <i>Plautia crossota stali</i>	○	
アミメカゲロウ			
ヒメカゲロウ	ヒメカゲロウ属 <i>Hemerobius radialis</i>	○	
クサカゲロウ	ヨツホシクサカゲロウ <i>Chrysopa septempunctata</i>		○
	ニッポンクサカゲロウ <i>Chrysoperla carnea</i>	○	
	スズキクサカゲロウ <i>Chrysoperla suzukii</i>	○	○
コウチュウ			
オサムシ	ミカワオサムシ <i>Carabus arrowianus arrowianus</i>	○	

オサムシ	アキタクロナガオサムシ <i>Apotomopterus porrecticollis porrecticollis</i>	○	
	クロナガオサムシ <i>Leptocarabus procerulus procerulus</i>	○	
	マイマイカブリ <i>Damaster blaptoides blaptoides</i>	○	
	ヒラタキイロチビゴミムシ <i>Trechus ephippiatus</i>	○	○
	ウスモンコムズギワゴミムシ <i>Tachyura fuscicauda</i>	○	
	ヨツモンコムズギワゴミムシ <i>Tachyura laetifica</i>	○	
	キアシヌレチゴミムシ <i>Patrobus flavipes</i>	○	○
	アシミゾナガゴミムシ <i>Pterostichus sulcitaris</i>	○	○
	セアカヒラタゴミムシ <i>Dolichus halensis</i>	○	○
	イグチマルガタゴミムシ <i>Amara macros</i>	○	
	オオマルガタゴミムシ <i>Amara gigantea</i>	○	
	ヒメケゴモクムシ <i>Harpalus jureceki</i>	○	○
	ケウスゴモクムシ <i>Harpalus griseus</i>	○	
	オオズケゴモクムシ <i>Harpalus eous</i>		○
	コゴモクムシ <i>Harpalus tridens</i>		○
	ミドリマメゴモクムシ <i>Stenolophus difficilis</i>		○
	オオスナハラゴミムシ <i>Diplocheila zeelandica</i>	○	○
	オオアトボシアオゴミムシ <i>Chlaenius micans</i>		○
	アオゴミムシ <i>Chlaenius pallipes</i>	○	
	フタモンクビナガゴミムシ <i>Archicolliuris bimaculata nipponica</i>	○	
	トゲアトキリゴミムシ <i>Aephnidius adelioides</i>	○	
	オサムシ科 Carabidae gen. spp.	○	○
ゲンゴロウ	マメゲンゴロウ <i>Agabus japonicus</i>		○
	モンキマメゲンゴロウ <i>Platambus pictipennis</i>	○	
	ヒメゲンゴロウ <i>Rhantus pulverosus</i>		○
	コシマゲンゴロウ <i>Hydaticus grammicus</i>	○	○
ミズスマシ	オナガミズスマシ属 <i>Orectochilus</i> sp.	○	
ハネカクシ	アロウヨツメハネカクシ <i>Olophrum arrowi</i>	○	
	アオバアリガタハネカクシ <i>Paederus fuscipes</i>	○	
	ハネカクシ科 Staphylinidae gen spp.	○	○
アリヅカムシ	アリヅカムシ科 Pselaphidae gen. sp.	○	
コケムシ	ヒメコケムシ属 <i>Euconnus</i> sp.		○
マルハナノミ	トビイロマルハナノミ <i>Scirtes japonicus</i>	○	○
クワガタムシ	コクワガタ <i>Macrodorcas rectus rectus</i>	○	
コガネムシ	ミツノエンマコガネ <i>Onthophagus tricornis</i>	○	
	ヒゲコガネ <i>Polyphylla laticollis</i>	○	○
	オオコフキコガネ <i>Melolontha frater</i>		○
	クロコガネ <i>Holotrichia kiotoensis</i>	○	○
	アカビロウドコガネ <i>Maladera castanes</i>	○	
	コイチャコガネ <i>Adoretus tenuimaculatus</i>	○	○
	アオドウガネ <i>Anomala albopilosa albopilosa</i>	○	○
	ドウガネブイブイ <i>Anomala cuprea</i>		○
	サクラコガネ <i>Anomala daimiana</i>		○
	ハンノヒメコガネ <i>Anomala puncticollis</i>	○	
	ヒメコガネ <i>Anomala rufocuprea</i>	○	○
	マメコガネ <i>Popillia japonica</i>	○	○
	コアオハナムグリ <i>Oxycetonia jucunda</i>	○	○

コガネムシ	シラホシハナムグリ <i>Protaetia brevitarsis</i>	○	○
マルトゲムシ	シラフチビマルトゲムシ <i>Simplocaria bicolor</i>		○
ヒラタドロムシ	チビヒゲナガハナノミ <i>Ectopria opaca</i>	○	○
	ヒラタドロムシ <i>Mataeopsephus japonicus</i>	○	○
ヒメドロムシ	ヨコミゾドロムシ <i>Leptelmis gracilis</i>	○	
タマムシ	ウメチビタマムシ <i>Trachys inconspicua</i>		○
コメツキムシ	サビキコリ <i>Agrypnus binodulus binodulus</i>		○
	ミカワサビキコリ <i>Agrypnus mikawaensis</i>	○	
	コメツキムシ科 Elateridae gen. sp.	○	
ホタル	ホタル科 Lampyridae gen. spp.		○
ジョウカイボン	ジョウカイボン科 Cantharidae gen. spp.	○	○
カツオブシムシ	カツオブシムシ科 Dermestidae gen. sp.		○
ジョウカイモドキ	ヒロオビジョウカイモドキ <i>Laius historio</i>	○	○
ケシキスイ	カタベニデオキスイ <i>Urophours humeralis</i>	○	
	ウスモンアカヒラタケシキスイ属 <i>Eपुरaea</i> sp.	○	○
	マルキマダラケシキスイ <i>Stelidota multiguttata</i>	○	
	アカマダラケシキスイ <i>Lasiodactylus pictus</i>	○	○
	ヨツボシケシキスイ <i>Librobor japonicus</i>	○	
ヒメハナムシ	アカボシチビヒメハナムシ <i>Stibus bipustulatus</i>	○	
ホソヒラタムシ	ホソヒラタキスイ <i>Silvanoprus inermis</i>		○
	ミツモンセマルヒラタムシ <i>Psammoecus triguttatus</i>		○
キシムシ	ヨツモンキスイ <i>Cryptophagus callosipennis</i>	○	○
	クロモンキスイ <i>Cryptophagus decoratus</i>		○
ミジンムシ	ナカグロミジンムシ <i>Arthrolips lewisii</i>		○
テントウムシダマシ	ヨツボシテントウダマシ <i>Ancylopus pictus asiaticus</i>	○	○
テントウムシ	オシマヒメテントウ <i>Nephus osimensis</i>		○
	セスジヒメテントウ <i>Nephus patagiatus</i>		○
	ハレヤヒメテントウ <i>Pseudoscymnus hareja</i>		○
	ババヒメテントウ <i>Scymnus babai</i>	○	
	クロヘリヒメテントウ <i>Scymnus hoffmanni</i>	○	
	コクロヒメテントウ <i>Scymnus posticalis</i>		○
	ヒメアカホシテントウ <i>Chilocorus kuwanae</i>		○
	クロテントウ <i>Telsimia nigra</i>		○
	ムーアシロホシテントウ <i>Calvia muiri</i>	○	○
	ナナホシテントウ <i>Coccinella septempunctata</i>	○	○
	ナミテントウ <i>Harmonia axyridis</i>	○	○
	ヒメカメノコテントウ <i>Propylea japonica</i>	○	○
	テントウムシ科 Coccinellidae gen. sp.	○	
ヒメマキムシ	ウスチャケシマキムシ <i>Corticicara gibbosa</i>	○	○
アリモドキ	ホソクビアリモドキ <i>Formicomus braminus candens</i>	○	○
ハムシダマシ	ハムシダマシ科 Lagridae gen. sp.		○
クチキムシ	オオクチキムシ <i>Allecula fuliginosa</i>		○
ゴミムシダマシ	ヒメスナゴミムシダマシ <i>Gonocephalum persimile</i>	○	○
	ガイマイゴミムシダマシ <i>Alphitobius diaperinus</i>	○	○
	ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae gen. sp.	○	○
カミキリムシ	クロカミキリ <i>Spondylis buprestoides</i>		○
	ゴマダラカミキリ <i>Anoplophora malasica</i>	○	
	シロスジカミキリ <i>Batocera lineolata</i>	○	

ハムシ	アズキマメゾウムシ <i>Callosobruchus chinensis</i>	○	○
	ヤマイモハムシ <i>Lema honorata</i>		○
	ドウガネサルハムシ <i>Scelodonta lewisii</i>	○	○
	ヤナギルリハムシ <i>Plagioderia versicolora</i>	○	
	ウリハムシ <i>Aulacophora femoralis</i>	○	○
	クロウリハムシ <i>Aulacophora femoralis</i>		○
	テンサイトビハムシ <i>Chaetocnema concinna</i>	○	
	ヒメドウガネトビハムシ <i>Chaetocnema concinnicollis</i>	○	
	ヒサゴトビハムシ <i>Chaetocnema ingenua</i>	○	
	ナトビハムシ <i>Psylliodes punctifrons</i>		○
ホソクチゾウムシ	ホソチビゾウムシ <i>Nanophyes marmoratus</i>		○
ゾウムシ	スグリゾウムシ <i>Pseusocneorhinus bifasciatus</i>		○
	アカイネゾウモドキ <i>Dorytomus roelofsi</i>	○	
	クワヒメゾウムシ <i>Baris deplanata</i>	○	
	カナムグラサルゾウムシ <i>Ceutorhynchus shaowuensis</i>	○	
	ゾウムシ科 Curculionidae gen. sp.	○	
ハチ			
ミフシハバチ	チュウレンジバチ属 <i>Arge</i> sp.		○
ハバチ	カブラハバチ <i>Athalia rosae ruficornis</i>	○	○
	カブラハバチ属 <i>Athalia</i> sp.	○	○
	ハバチ科 Tenthredinidae gen. spp.		○
コマユバチ	コマユバチ科 Braconidae gen. spp.	○	○
ヒメバチ	ヒメバチ科 Ichneumonidae gen. spp.	○	○
アシプトコバチ	アシプトコバチ科 Chalcididae gen. sp.		○
ツチバチ	オオモンツチバチ <i>Scolia histrionica japonica</i>	○	○
	ヒメハラナガツチバチ <i>Campsomeriella annulata annulata</i>	○	○
	ハラナガツチバチ <i>Campsomeris schulthessi</i>	○	○
	オオハラナガツチバチ <i>Megacampsomeris grossa matsumurai</i>		○
アリ	カギバラアリ属 <i>Proceratium</i> sp.	○	
	アシナガアリ <i>Aphaenogaster famelica famelica</i>		○
	キイロシリアゲアリ <i>Crematogaster osakensis</i>	○	○
	シリアゲアリ属 <i>Crematogaster</i> sp.	○	○
	ハリナガムネボソアリ <i>Leptothrax congruus</i> var. <i>spiniosior</i>	○	
	ムネボソアリ <i>Leptothrax congruus</i>	○	○
	クロナガアリ <i>Messor aciculatus</i>		○
	カドフシアリ <i>Myrmecina graminicola nipponica</i>	○	○
	ヒラタウロコアリ <i>Pentastruma canica</i>		○
	アズマオオズアリ <i>Pheidole fervida</i>	○	○
	オオズアリ <i>Pheidole nodus</i>	○	○
	アミメアリ <i>Pristomyrmex pungens</i>	○	○
	ノコバウロコアリ <i>Smithistruma incerta</i>		○
	トフシアリ <i>Solenopsis japonica</i>		○
	ウロコアリ <i>Strumigenys lewisi</i>	○	
	トビイロシワアリ <i>Tetramorium caespitum</i>	○	○
	シベリアカタアリ <i>Hypoclinea sibirica</i>		○
	ルリアリ <i>Iridomyrmex itoi</i>	○	
	イトウオオアリ <i>Camponotus itoi</i>		○
	ウメマツオオアリ <i>Camponotus tokioensis</i>	○	○

アリ	クロヤマアリ <i>Formica japonica</i>	○	○
	トビイロケアリ <i>Lasius niger</i>	○	○
	ケアリ属 <i>Lasius</i> sp.	○	
	アメイロアリ <i>Paratrechina flavipes</i>	○	○
	アリ科 Formicidae gen. sp.	○	○
ベッコウバチ	ベッコウバチ <i>Cyphononyx dorsalis</i>		○
	オオシロフベッコウ <i>Episyron arrogans</i>		○
ドロバチ	オオフトオビドロバチ <i>Anterhynchium flavomarginatum micado</i>	○	○
	サムライトックリバチ <i>Eumenes samuray</i>	○	○
	ミカドトックリバチ <i>Eumenes micado</i>	○	○
	スズバチ <i>Oreumenes decoratus</i>	○	○
	チビドロバチ <i>Stenodymerus frauenfeldi</i>		○
スズメバチ	フタモンアシナガバチ <i>Polistes chinensis antennalis</i>	○	○
	キアシナガバチ <i>Polistes rothneyi iwatani</i>	○	○
	コガタスズメバチ <i>Vespa analis nagatomii</i>		○
	モンズズメバチ <i>Vespa crabro flavofasciata</i>	○	○
	ヒメズズメバチ <i>Vespa tropica pulchra</i>	○	○
	クロスズメバチ属 <i>Vespula</i> sp.		○
アナバチ	ルリジカバチ <i>Chalybion japonicum</i>		○
アナバチ	コクロアナバチ <i>Isodontia nigella</i>	○	○
	アナバチ科 Specidae gen. sp.	○	○
コハナバチ	コハナバチ科 Kalictidae gen. sp.	○	
ミツバチ	セイヨウミツバチ <i>Apis mellifera</i>	○	○
	ミツバチ科 Apidae gen. sp.	○	○
ハエ			
ガガンボ	ガガンボ属 <i>Tipula</i> sp.	○	○
	ガガンボ亜科 Prionocera sp.	○	○
	ヒメガガンボ亜科 Limoniidae gen. sp.		○
	ガガンボ科 Tipulidae gen. spp.	○	○
カ	ヒトスジシマカ <i>Aedes albopictus</i>	○	○
ヌカカ	ヌカカ科 Ceratopogonidae gen. spp.	○	○
ユスリカ	ユスリカ属 <i>Chironomus</i> sp.		○
	ケバネユスリカ属 <i>Pentapedilum</i> sp.		○
	ユスリカ科 Chironomidae gen. spp.	○	○
ケバエ	ケバエ科 Bibionidae gen. sp.		○
タマバエ	タマバエ科 Cecidomyiidae gen. sp.	○	
キノコバエ	キノコバエ科 Mycetophilidae gen. sp.		○
クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科 Sciaridae gen. spp.	○	○
ミズアブ	ハラキンミズアブ <i>Microchrysa flaviventris</i>	○	○
	コウカアブ <i>Ptecticus tenebrifer</i>	○	○
	ルリミズアブ <i>Sargus nipponensis</i>	○	
	アメリカミズアブ <i>Hermetia illucens</i>	○	○
アブ	アブ属 <i>Tabanus</i> sp.		○
	アブ科 Tabanidae gen. spp.	○	○
ツリアブ	コウヤツリアブ <i>Anthrax axyglus</i>	○	
ムシヒキアブ	アオメアブ <i>Cophinopoda chinensis</i>		○
	ムシヒキアブ科 Asilidae gen. sp.	○	
オドリバエ	オドリバエ科 Empididae gen. sp.	○	

アシナガバエ	マダラアシナガバエ <i>Mesorhaga nebulosus</i>		○
	アシナガバエ科 Dolichopodidae gen. spp.	○	○
ノミバエ	ノミバエ科 Phoridae gen. sp.	○	
アタマアブ	アタマアブ科 Pipunculidae gen. sp.	○	
ハナアブ	ホソヒラタアブ <i>Episyrphus balteatus</i>	○	○
	ヒメヒラタアブ <i>Sphaerophoria menthastri</i>	○	○
	ホシツヤヒラタアブ <i>Melanostoma scalare</i>		○
	クロハナアブ属 <i>Cheilosia</i> sp.	○	
	キゴシハナアブ <i>Eristalinus quinquestriatus</i>	○	○
	シマハナアブ <i>Eristalis cerealis</i>	○	
	ハナアブ <i>Eristalis tenax</i>	○	
	オオハナアブ <i>Phytomia zonata</i>	○	○
ツヤホソバエ	ツヤホソバエ科 Sepsidae gen. sp.		○
ハモグリバエ	ハモグリバエ科 Agromyzidae gen. sp.	○	○
キモグリバエ	キモグリバエ科 Chloropidae gen. spp.	○	○
ショウジョウバエ	ショウジョウバエ属 <i>Drosophila</i> sp.	○	○
	ショウジョウバエ科 Dolosophilidae gen. sp.	○	
トゲハネバエ	トゲハネバエ科 Heleomyzidae gen. sp.	○	
フンバエ	ヒメフンバエ <i>Scathophaga stercoraria</i>	○	
ハナバエ	ハナバエ科 Anthomyiidae gen. spp.	○	○
イエバエ	チャバネヒメクロバエ <i>Hydrotaea chalcogaster</i>		○
クロバエ	キンバエ属 <i>Lucilia</i> sp.	○	○
クロバエ	ツマグロキンバエ <i>Stomorhina obsoleta</i>	○	○
	クロバエ科 Calliphoridae gen. sp.	○	○
ニクバエ	シリグロニクバエ <i>Helicophagella melanura</i>	○	
	ホリニクバエ <i>Bellieriomima horii</i>	○	○
	ニクバエ科 Sarcophagidae gen. sp.	○	
ヤドリバエ	クロツヤハリバエ <i>Pales townsendi</i>	○	○
	ヤドリバエ科 Tachinidae gen. spp.	○	○
トビケラ			
ヤマトビケラ	ヤマトビケラ科 Glossosomatidae gen. sp.	○	
ナガレトビケラ	ナガレトビケラ属 <i>Rhyacophila</i> spp.	○	○
ヒメトビケラ	ヒメトビケラ科 Hydroptilidae gen. sp.	○	○
ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ <i>Stenopsyche marmorata</i>	○	○
シマトビケラ	コガタシマトビケラ <i>Cheumatopsyche brevilineatus</i>	○	○
	シロズシマトビケラ <i>Hydropsyche albicephala</i>	○	
	ナカハラシマトビケラ <i>Hydropsyche setensis</i>	○	○
	ウルマーシマトビケラ <i>Hydropsyche ulmeri</i>	○	
	シマトビケラ属 <i>Hydropsyche</i> spp.	○	○
	オオシマトビケラ <i>Macronema lacustris</i>	○	○
	ホソバトビケラ属 <i>Molanna</i> sp.	○	
ヒゲナガトビケラ	アオヒゲナガトビケラ <i>Mystacides azurea</i>		○
	ヒゲナガトビケラ科 Leptoceridae gen. spp.	○	
エグリトビケラ	ニンギョウトビケラ <i>Goera japonica</i>	○	○
	ニンギョウトビケラ属 <i>Goera</i> sp.		○
	ホタルトビケラ <i>Nothopsyche ruficollis</i>	○	
	エグリトビケラ属 <i>Limnephilus</i> sp.	○	
	エグリトビケラ科 Limnephilidae gen. spp.	○	○

カクスイトビケラ	マルツツトビケラ <i>Micrasema quadriloba</i>	○
	カクスイトビケラ科 <i>Brachycentrus</i> gen. sp.	○
チョウ		
ハマキガ	オオアトキハマキ <i>Archips ingentanus</i>	○
	アトボシハマキ <i>Hoshinoa longicellana</i>	○
	チャハマキ <i>Homona magnanima</i>	○
	フタモンコハマキ <i>Argyrotaenia liratana</i>	○
	ウスチャヒメハマキ	○
	マユミヒメハマキ <i>Neostatherotis nipponica</i>	○
	ヨモギネムシガ <i>Epiblema foenella</i>	○ ○
	ヨツジヒメシンクイ <i>Grapholita quadristriana</i>	○ ○
	コスソキモンヒメハマキ <i>Grapholita scintillana</i>	○
	ハマキガ科 <i>Tortricidae</i> gen. spp.	○ ○
カザリバガ	カザリバガ科 <i>Cosmopterigidae</i> gen. sp.	○
ヒゲナガキバガ	ゴマフシロキバガ <i>Odites leucostola</i>	○
マダラガ	ミノウスバ <i>Pyeria sinica</i>	○
イラガ	テングイラガ <i>Microleon longipalpis</i>	○
マドガ	チビアカジママドガ <i>Striglina paravenia</i>	○
	アミマドガ <i>Striglina suzuki</i>	○
メイガ	シロエグリットガ <i>Pareromene exsectella</i>	○
	ヨシツトガ <i>Chilo luteellus</i>	○
	ニカメイガモドキ <i>Chilo hyrax</i>	○ ○
	シロスジツトガ <i>Pseudocatharylla inclaralis</i>	○ ○
	ウスクロスジツトガ <i>Chrysoteuchia diplogramma</i>	○
	シバツトガ <i>Parapediasia teterrella</i>	○
	ナガハマツトガ <i>Platytes ornatella</i>	○
	ツトガ <i>Ancylolomia japonica</i>	○
	ハナダカノメイガ <i>Camptomastix hisbonalis</i>	○
	ミツテンノメイガ <i>Mabra charonialis</i>	○ ○
	シロオビノメイガ <i>Hymenia recurvalis</i>	○ ○
	アヤナミノメイガ <i>Eurrhyparodes accessalis</i>	○ ○
	ヨスジノメイガ <i>Pagyda quadrilineata</i>	○
	コブノメイガ <i>Cnaphalocrocis medinalis</i>	○ ○
	シロテンキノメイガ <i>Nacoleia commixta</i>	○ ○
	マエウスキノメイガ <i>Hedylepta indicata</i>	○
	オオキノメイガ <i>Botyodes principalis</i>	○
	タイワンウスキノメイガ <i>Botyodes diniasalis</i>	○
	マエアカスカシノメイガ <i>Palpita nigropunctalis</i>	○ ○
	チビスカシノメイガ <i>Glyphodes pyloalis</i>	○
	ミスジノメイガ <i>Protonoceras capitalis</i>	○
	キホソノメイガ <i>Circobotys heterogenalis</i>	○
	マメノメイガ <i>Maruca testulalis</i>	○ ○
	ワモンノメイガ <i>Nomophila noctuella</i>	○ ○
	オオウスグロノメイガ <i>Bradina erilitoides</i>	○
	マエキノメイガ <i>Herpetogramma rudis</i>	○
	ケナガチビクロノメイガ <i>Herpetogramma stultalis</i>	○
	ウスオビクロノメイガ <i>Herpetogramma fuscescens</i>	○
	モンキクロノメイガ <i>Herpetogramma luctuosalis</i>	○

メイガ	マエキシタグロノメイガ <i>Sitochroa umbrosalis</i>	○	
	シロアヤヒメノメイガ <i>Diasemia litterata</i>		○
	モンシロルリノメイガ <i>Uresiphita tricolor</i>		○
	アワノメイガ <i>Ostrinia furnacalis</i>	○	○
	フキノメイガ <i>Ostrinia scapularis</i>		○
	クロモンキノメイガ <i>Udea testacea</i>	○	○
	ルリノメイガ <i>Udea orbicentralis</i>	○	
	ヒメヨツモンノメイガ <i>Heliothela nigralbata</i>		○
	ノメイガ亜科 Piraustinae gen. sp.	○	
	ヒメマグラミズメイガ <i>Nymphura responsalis</i>	○	○
	トサカフトメイガ <i>Locastra muscosalis</i>		○
	ツマキシマメイガ <i>Orthopygia placens</i>		○
	キモントガリメイガ <i>Endotricha kuznetzovi</i>		○
	キオビトガリメイガ <i>Endotricha flavofascialis</i>	○	
	ケベリトガリメイガ <i>Endotricha prtialis</i>	○	
	アツアカマダラメイガ <i>Diorcytria pryeri</i>		○
	ナシマダラメイガ <i>Ectomyelois pyrivorella</i>		○
	シロイチモンジマダラメイガ <i>Etiella zinckenella</i>		○
	メイガ科 Pyralide gen. sp.	○	○
トリバガ	ヨモギトリバ <i>Leioptilus lienigianus</i>	○	○
セセリチョウ	ダイミョウセセリ <i>Daimo tethys</i>	○	○
	ヒメキマダラセセリ <i>Ochloides ochraceus</i>		○
	イチモンジセセリ <i>Parnara guttata guttata</i>	○	○
	チャパネセセリ <i>Pelopidas mathias oberthueri</i>	○	○
	オオチャパネセセリ <i>Polytremis pellucida pellucida</i>		○
	キマダラセセリ <i>Potanthus maculatus maculatus</i>	○	○
アゲハチョウ	ジャコウアゲハ <i>Atrophaneura alcinous alcinous</i>	○	○
	アオスジアゲハ <i>Graphium sarpedon nipponum</i>	○	○
	カラスアゲハ <i>Papilio bianor dehaanii</i>		○
	キアゲハ <i>Papilio machaon hippocrates</i>	○	○
	クロアゲハ <i>Papilio protenor demetrius</i>		○
	ナミアゲハ <i>Papilio xuthus</i>	○	○
シロチョウ	モンキチョウ <i>Colias erata poliographus</i>	○	
	キチョウ <i>Eurema hecabe</i>	○	○
	スジグロシロチョウ <i>Pieris melete melete</i>	○	
	モンシロチョウ <i>Pieris rapae crucivora</i>	○	○
シジミチョウ	ルリシジミ <i>Celastrina argiolus ladonides</i>	○	○
	ツバメシジミ <i>Everes argiades hellotia</i>	○	○
	ウラナシジミ <i>Lampides boeticus</i>		○
	ベニシジミ <i>Lycaena phlaeas</i>	○	○
	ムラサキシジミ <i>Narathura japonica</i>	○	
	ヤマトシジミ <i>Zizeeria maha argia</i>	○	○
	ウラギンシジミ <i>Curetis acuta paracuta</i>	○	○
タテハチョウ	コムラサキ <i>Apatura metis substituta</i>	○	○
	ミドリヒョウモン <i>Argynnis paphia tsushimana</i>	○	
	ツマグロヒョウモン <i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>	○	○
	ヒメアカタテハ <i>Cynthia cardui</i>	○	○
	メスグロヒョウモン <i>Damora sagana ilone</i>		○

タテハチョウ	ゴマダラチョウ <i>Hestina japonica</i>	○	○
	ルリタテハ <i>Kaniska canace no-japonicum</i>	○	○
	イチモンジチョウ <i>Ladoga camilla japonica</i>		○
	アサマイチモンジ <i>Ladoga glorifica</i>	○	
	コムシジ <i>Neptis sappho intermedia</i>	○	○
	キタテハ <i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>	○	○
	アカタテハ <i>Vanessa indica</i>	○	○
ジャノメチョウ	クロコノメチョウ <i>Melanitis phedima oitensis</i>	○	○
	コジャノメ <i>Mycalasis francisca perdiccas</i>		○
	ヒメジャノメ <i>Mycalasis gotama fulginia</i>	○	○
	サトキマダラヒカゲ <i>Neope goschkevitschii</i>	○	○
	ヒメウラナミジャノメ <i>Ypthima argus</i>	○	○
カギバガ	ヤマトカギバ <i>Nordstromia japonica</i>	○	
	アシベニカギバ <i>Oreta pulchripes</i>	○	
トガリバガ	オオアヤトガリバ <i>Habrosyne fraterna</i>	○	
シャクガ	クスアオシャク <i>Thalassodes subquadraria</i>		○
	ナミスジコアオシャク <i>Diprloidesma ussuriaria</i>	○	○
	ヨツモンマエジロアオシャク <i>Comibaena procumbaria</i>	○	○
	コヨツメアオシャク <i>Comostola subtiliaria</i>	○	
	フタナミトビヒメシャク <i>Pylargosceles steganioides</i>		○
	フトベニスジヒメシャク <i>Timandra apicirosea</i>	○	
	ウンモンオオシロヒメシャク <i>Somatina indicataria</i>		○
	マエキヒメシャク <i>Scopula nigropunctata</i>	○	
	モントビヒメシャク <i>Scopula modicaria</i>	○	
	キナミシロヒメシャク <i>Scopula superior</i>	○	
	クロスジシロヒメシャク <i>Scopula pudicaria</i>	○	
	ウスウラナミヒメシャク <i>Scopula longicerata</i>		○
	ギンバナヒメシャク <i>Scopula epiorrhoe</i>	○	
	ウスキクロテンヒメシャク <i>Scopula ignobilis</i>	○	
	コヒメシャク属 <i>Scopula</i> spp.		○
	オビベニヒメシャク <i>Idaea nielseni</i>		○
	キオビベニヒメシャク <i>Idaea impexa</i>		○
	フチベニヒメシャク <i>Idaea jakima</i>		○
	オオウスモンキヒメシャク <i>Idaea imbecilla</i>	○	
	トビスジヒメナミシャク <i>Orthonama obistipata</i>	○	○
	オオネグロウスベニナミシャク <i>Photoscotosia lucicolens</i>	○	○
	キアミメナミシャク <i>Eustroma aerosum</i>		○
	フタテンナカジロナミシャク <i>Dysstroma cinereata</i>		○
	ツマキナカジロナミシャク <i>Dysstroma citrata</i>	○	○
	クロテンカバナミシャク <i>Eupithecia emanaa</i>	○	
	ソトシロオビナミシャク <i>Chloroclystis excisa</i>	○	
	ヒメダラエダグシャク <i>Abraxas nipponibia</i>	○	○
	ユウマダラエダグシャク <i>Abraxas miranda</i>	○	
	アベリアハグルマエダグシャク <i>Synergia pallens abeliae</i>		○
	チャノウンモンエダグシャク <i>Jankowskia pseudathleta</i>		○
	ナカウスエダグシャク <i>Alcis angulifera</i>	○	○
	ウスバミスジエダグシャク <i>Hypomecis punctinalis comferenda</i>	○	
	クロスジフユエダグシャク <i>Pachyerannis obliquaria</i>	○	

シャクガ	チャエダシャク <i>Megabiston plumosaria</i>		○
	エグリヅマエダシャク <i>Odontopera arida</i>	○	
	ウラベニエダシャク <i>Heterolocha aristonaria</i>	○	○
	ウスキツバメエダシャク <i>Ourapteryx nivea</i>		○
	シャクガ科 Geometridae gen. sp.		○
ツバメガ	ギンツバメ <i>Acropteris iphiata</i>	○	
カレハガ	ヨシカレハ <i>Euthrix potatoria bergmani</i>	○	
カイコガ	クワコ <i>Bombix mandarina</i>	○	○
スズメガ	オオスカシバ <i>Cephonodes hylas</i>	○	○
	ホシヒメホウジャク <i>Gurelca himachala</i>		○
	ホシホウジャク <i>Macroglossum pyrhosticta</i>	○	○
	ホウジャク属 <i>Macroglossum</i> sp.		○
ドクガ	ヒメシロモンドクガ <i>Orgyia thyellina</i>	○	○
	チャドクガ <i>Euproctis pseudoconsersa</i>	○	
ヒトリガ	キシタホソバ <i>Eilema griseola</i>	○	
	ヤネホソバ <i>Eilema fuscodorsalis</i>	○	
	ニセキマエホソバ <i>Eilema nankingica</i>	○	
	マエグロホソバ <i>Conilepia nigricosta</i>	○	
	アカスジシロコケガ <i>Bizone hamata</i>	○	
	クロスジチビコケガ <i>Nanoba rectilinea</i>		○
	スジベニコケガ <i>Mitochnista striata</i>	○	
	ゴマダラキコケガ <i>Stigmatophora flava</i>	○	
	スカシコケガ <i>Chamatia ranurna</i>	○	
	オビヒトリ <i>Spilosoma subcarneum</i>	○	
	キハラゴマダラヒトリ <i>Spilosoma lubricipeda</i>	○	
コブガ	クロスジシロコブガ <i>Nora taeniata</i>	○	○
	ミスジコブガ <i>Nora trilinea</i>		○
	クロスジコブガ <i>Meganola fumosa</i>	○	
カノコガ	カノコガ <i>Amata fortunei</i>		○
ヤガ	ナシケンモン <i>Viminia lutea leucoptera</i>		○
	イチモジキノコヨトウ <i>Bryophila grantialis</i>	○	
	キノコヨトウ <i>Cryphia obscura</i>	○	○
	タバコガ <i>Helicoverpa assulata</i>	○	
	タマナヤガ <i>Agrotis ipsilon</i>	○	
	カブラヤガ <i>Agrotis segetum</i>		○
	クロクモヤガ <i>Hermonassa cecilia</i>	○	○
	ニセタマナヤガ <i>Peridroma saucia</i>		○
	コウスチャヤガ <i>Diarsia deparca</i>	○	
	オオバコヤガ <i>Diarsia canescens</i>	○	○
	ウスイロアフヤガ <i>Diarsia ruficauda</i>	○	
	シロモンヤガ <i>Xestia c-nigrum</i>	○	○
	シロシタヨトウ <i>Sarcopolia illoba</i>	○	
	フタオビキヨトウ <i>Mythimna turca</i>	○	
	ウラギンキヨトウ <i>Aletia pryri</i>	○	
	スジグロキヨトウ <i>Aletia nigrilinea</i>	○	
	マメチャイロキヨトウ <i>Aletia consanguis</i>		○
	アワヨトウ <i>Pseudaletia separata</i>	○	○
	スジシロキヨトウ <i>Leucania striata</i>	○	

ヤガ	アトジロキヨトウ <i>Leucania compta</i>	○	
	クサシロキヨトウ <i>Acantholeucania loreyi</i>	○	○
	キバラモクメキリガ <i>Xylena formosa</i>		○
	チャマグラキリガ <i>Rhynchaglaea scitula</i>	○	
	アカモクメヨトウ <i>Apamea aquila</i>	○	
	イネヨトウ <i>Sesamia inferens</i>	○	
	シロスジアオヨトウ <i>Trachea atriplicis</i>	○	
	シロナヨトウ <i>Spodoptera mauritia</i>	○	○
	スジキリヨトウ <i>Spodoptera depravata</i>	○	○
	ヒメサビスジヨトウ <i>Athetis stellata</i>	○	○
	オオシマカラスヨトウ <i>Amphipyra monolitha</i>	○	○
	カラスヨトウ <i>Amphipyra livida</i>	○	
	シマカラスヨトウ属 <i>Amphipyra</i> sp.	○	
	ノコメセダカヨトウ <i>Orthogonia sera</i>		○
	ニレキリガ <i>Osmia affinis</i>	○	○
	チャオビヨトウ <i>Niphonyx segregata</i>	○	
	ベニモンヨトウ <i>Oligonyx vulnerata</i>	○	
	マエホシヨトウ <i>Pyrrhivalva sordida</i>	○	○
	マグラツマキリヨトウ <i>Calloplistria repleta</i>	○	
	ベニモンアオリンガ <i>Earias roseifera</i>	○	
	クロハナコヤガ <i>Aventiola pusilla</i>	○	
	カバイロシマコヤガ <i>Corgatha argillacea</i>	○	
	シマフコヤガ <i>Corgatha nitens</i>	○	
	ヒメネジロコヤガ <i>Maliattha signifera</i>	○	○
	シロマグラコヤガ <i>Lithacodia distinguenda</i>		○
	ネモンシロフコヤガ <i>Lithacodia idiosygia</i>		○
	ホシコヤガ <i>Ozarba punctigera</i>	○	○
	フタオビコヤガ <i>Naranga aenescens</i>		○
	キマグラコヤガ <i>Emmelia trabealis</i>		○
	サビイロコヤガ <i>Amyna stellata</i>		○
	ギンモンシロウワバ <i>Nacumnoughia purissima</i>	○	
	エゾギクキンウワバ <i>Ctenoplusia albostrata</i>	○	
	ホソバネギンウワバ <i>Chrysodeixis acuta</i>	○	○
	ホソオビアシブトクチバ <i>Parallelia arctotaenia</i>	○	○
	オウンモンクチバ <i>Mocis undata</i>		○
	ニセウンモンクチバ <i>Mocis annetta</i>		○
	ムクゲコノハ <i>Lagoptera juno</i>		○
	フクラスズメ <i>Arcte coerulea</i>	○	○
	オスグロトモエ <i>Spirama retorta</i>		○
	ヒメエグリバ <i>Oraesia emarginata</i>	○	
	アカエグリバ <i>Oraesia excavata</i>	○	○
	アケビコノハ <i>Adris tyrannus</i>		○
	ニセミカドアツバ <i>Lophomilia takao</i>		○
	キンスジアツバ <i>Colobochyla salicalis</i>	○	○
	ウスグロセニジモンアツバ <i>Paragona inchoata</i>		○
	スジモンアツバ <i>Microxyla confusa</i>	○	
	フタテンチピアツバ <i>Neachrostita bipuncta</i>	○	
	テックロアツバ <i>Rivula sericealis</i>	○	

ヤガ

タケアツバ <i>Rivula biatomea</i>	○	○
<i>Rivula</i> sp.	○	
クロスジヒメアツバ <i>Schrankia costaestrigalis</i>	○	
ハスオビヒメアツバ <i>Schrankia separatalis</i>	○	
メスグロヒメアツバ <i>Schrankia dimorpha</i>	○	
チビアツバ <i>Luceria fletcheri</i>	○	
キシタアツバ <i>Hypena claripennis</i>	○	
クロキシタアツバ <i>Hypena amica</i>	○	○
コテングアツバ <i>Hypena pulverulenta</i>		○
ソトウスグロアツバ <i>Hydrillodes repugnalis</i>	○	○
フサキバアツバ <i>Trotosema sordidum</i>	○	
カギモンハナオイアツバ <i>Cidariplura signata</i>	○	
オオアカマエアツバ <i>Simplicia pseudoniphona</i>	○	○
ヒメコブヒゲアツバ <i>Zanclognatha tarsipennalis</i>	○	○
ウラジロアツバ <i>Zanclognatha stramentacealis</i>	○	
シラナミアツバ <i>Herminia innocens</i>	○	○
トビスジアツバ <i>Herminia tarsicrinalis</i>		○
ウスキミスジアツバ <i>Herminia arenosa</i>	○	
ヤガ科 Noctudae gen. spp.	○	○